

平成28年度

京都景観賞 景観づくり活動部門



表彰式

平成29年3月11日(土)



京都市
CITY OF KYOTO

ごあいさつ



京都市長

門川 大作

歴史ある町家、意匠を凝らしながらも周囲と調和した看板、さらには美しく掃き清められた通りや道行く人の目を楽しませてくれる草花…。景観は、人々のあらゆる営みの現れであり、そこに暮らす方々の御参加と御協力がなければ成り立たないものです。国内外から高く評価される京都の優れた景観は、京都に愛着を持ち、まちを磨き上げてくださる市民の皆様お一人おひとりの貴いお取組があってこそそのもの。改めて皆様に心から感謝申し上げます。

本市ではこの度、平成24年度に創設した「京都景観賞」において、「景観づくり活動部門」を初めて実施し、市民の皆様の優れた景観づくりのお取組を表彰させていただくことといたしました。初開催の部門にもかかわらず、41件もの素晴らしい御応募の数々！しかも、歴史や自然を生かした京都ならではのお取組で、地域の皆様の深い絆が感じられるものばかり。審査委員会で議論を尽くしていただいた結果、市長賞に加え、当初の予定を大きく上回る件数の優秀賞、そして審査委員奨励賞を新たに設け、お贈りすることとなりました。大変嬉しく、心強い限りであり、皆様のまちづくりへの高いお志に本当に頭の下がる思いを致しております。

千年を超える歴史の中で守り育てられてきたこの美しい京都の景観を、更に発展させて未来へと継承することは、現代に生きる私たちの使命であり、責務でもあります。今後も市民・事業者の皆様、京都を愛する全ての皆様と行政が手と手を携え、個性と魅力あふれる京都の景観づくりに共々に取り組んでまいりましょう。

景観づくり活動部門に添えて



京都景観賞審査委員会委員長
(京都府立大学副学長)

宗田 好史

新しい景観政策が始まって10年、京都の街はその美しさを増しています。京都景観賞が創設されて5年、屋外広告物、建築に続き今回「景観づくり活動」が表彰されます。広告物も建築も確かに美しくなりました。とはいえ、京都の景観は市民の皆さんの日々の活動によって美しく輝きます。御応募いただいた41の取組は市内各地で町並みや山並み、竹垣に並木、そして水路など様々な古都の美しさを守る日常の市民の景観づくりです。応募された数十年の活動の背景にも、半世紀以上にわたる市民の皆さんの長い活動の積重ねがあります。たゆまぬ御努力が現在の景観政策を実現し、世界から高く評価される古都の美が守られているのだと思います。全国で最も厳しいといわれる景観政策は、最も熱心に、それどころよりも早く始まり、これからも長く続く京都市民の皆さんの景観づくりがあったからです。

1960年代の双ヶ岡開発や京都タワーの問題は古都の美観論争に市民の熱い関心を集めました。高度経済成長期の未熟な不動産・建築業界が乱開発に走ったのを古都保存法（1966年）と市街地景観条例（1972年）等の立法措置で留めたことも市民の関心の高さからです。他都市と比べ戦災が少なかった京都の歴史的景観は、戦後72年もの間途切れることのない市民の関心によって守られてきたのです。この関心はそれぞれの場所でたゆむことなく続けられた市民の景観づくりが市民の身近にあったからです。美しい景観は先人から受け継がれたものです。しかし、今日も明日も市民の皆さんの景観づくりによって美しさを増し、百年先に継承されます。京都市民は日々景観まちづくりを担う皆さんとともに、現代の京都に暮らすことを誇りに思います。新景観政策10年目の今年、京都景観賞を通じて、その誇りを皆さんと共有できることを心から喜んでいきます。今回表彰される方々はもちろんのこと、表彰されなくとも景観まちづくりに加わった方々を称えるように、美しさを増す京都は世界中の人々を魅了しています。

京都景観賞景観づくり活動部門について

目的

京都市では、未来に継承すべき優れた都市景観の形成に資するものや市民、事業者等による景観づくりへの活動を称え、表彰する「京都景観賞」を平成24年度に創設しました。これまで「屋外広告物部門」と「建築部門」に関する表彰を行い、平成28年度は「景観づくり活動部門」に関する募集を初めて実施しました。「景観づくり活動部門」では、市内で行われている優れた景観づくりの取組を表彰することで、市民の皆様に情報発信を行うとともに、様々な実践活動の更なる推進を図ることを目的としています。

募集の対象

団体で取り組まれている京都市内を主たる活動の場とする景観づくり活動
(自薦他薦不問。ただし、他薦の場合は活動団体の同意が必要)

＜募集時にお示しした「景観づくり活動」の事例＞

- ・まちづくり協議会や町内会、自治会等が地域で行っている美化活動
- ・市民団体や企業等が行っている森林や竹林の整備
- ・地域の夜の景観を美しく見せる取組
- ・複数の建物が一体となって地域の景観を向上させるためのルールづくりや開発事業
- ・まちあるき等により地域の景観資源を見つけ、その価値や課題を共有し、守り育てる取組

募集期間

平成28年8月24日～平成28年10月21日

応募総数

41件

選考経過

京都景観賞審査委員会において、1次選考(書類選考)及び2次選考(プレゼンテーション・最終選考)により選考を行いました。

- ・1次選考では、議論の結果、以下の4点を評価項目とすることとし、市長賞及び優秀賞を選考する2次選考にお越しいただく23件を選定しました。
(1)持続性、安定性 (2)手法も含めた創造性 (3)地域の歴史、自然を踏まえているか (4)具体的な成果
- ・2次選考では、23件のプレゼンテーションをお聴きした後、改めて4点の評価項目で審査を行いました。当初の想定を上回る多種多様な取組を御応募いただき、特徴的な優れた活動が多くあったことから、審査委員会での議論の結果、優秀賞の数を増やすこととし、市長賞1件及び優秀賞9件(当初予定は4件)を選定しました。
- ・また、審査委員奨励賞を設け、プレゼンテーションを実施していただいた活動には、審査委員の選評を当パンフレットに掲載しています。
- ・奨励賞は応募書類を基に選考を行いました。

表彰件数

市長賞	1件
優秀賞	9件
審査委員奨励賞	13件
奨励賞	18件

京都景観賞審査委員会

＜第1回審査委員会＞平成28年11月17日(書類選考)

＜第2回審査委員会＞平成28年12月19日(プレゼンテーション・最終選考)

＜京都景観賞審査委員会＞

宗田 好史	委員長	京都府立大学大学院教授
深町加津枝	委員長代理	京都大学大学院准教授
阿部 大輔	委員	龍谷大学准教授
大島 明	委員	市民公募委員
岡井 有佳	委員	立命館大学准教授
濱崎加奈子	委員	有斐斎 弘道館 館長
平田 晃久	委員	京都大学大学院准教授
行元 沙弥	委員	市民公募委員



プレゼンテーション



団体名

姉小路界隈を考える会

活動名称

住まいとなりわいが共存する行儀よく品格のあるまちへ

【活動概要】

姉小路通を軸として北は御池通、南は三条通、東は寺町通、西は烏丸通に囲まれた「姉小路界隈」は、文人墨客の看板を掲げた老舗も多く、戸建てを中心とした低層の落ち着いた町並みや京都の都心にありながら静かな住環境をもつまちである。平成7年にマンション建設計画の反対運動を契機に設立された「姉小路界隈を考える会」は、事業者と協議を重ね、地域共生型マンションを実現。平成12年には「住みよい、安心して暮らせる環境づくり」や「町に住み、働く人々に愛され、誇りに思える町並みづくり」などの具体化に向けて「姉小路界隈町式目（平成版）」を策定し、その理念のもと、建築協定や地区計画、京都市市街地景観整備条例に基づく地域景観づくり協議会などの多様な制度を活用し、実効性のあるまちづくりが進められている。さらに、地域住民が主体となり、街なみ環境整備事業を活用した建物の修景事業を平成16年から10年間で26件実施し、目に見える成果を上げているとともに、22年前から開催されている「行灯会」をはじめとして、道路空間を活用した様々なイベントが継続して開催されている。

選評

御池通と三条通の間ながら姉小路界隈は老舗を含む小商店と町家など、その普通さが京都らしさを感じさせる愛おしい街である。各地で高層化が進み、町並みが損なわれた時代、高層マンション計画を機に始まった住民の景観まちづくりは、他の街に先駆けて京都らしさを向上させ始めた。街並み環境整備事業、「町式目」、建築協定、行灯会など、常に景観まちづくりの先陣を切った。まず、その姿勢を称えるべきであるが、その陰で界隈の住民の皆さんの人の和を向上させ続けた心遣いに、優れた住民まちづくりの姿がある。

受賞団体コメント

22年前の設立はマンション反対運動でした。意見交換を通じ、後の京都市内のマンションモデルを実現できました。都心部である姉小路界隈は、多種多様な活動が活発であり、そのコンセンサスを図りつつ、都市環境維持・安全性確保・景観向上が課題です。世界を魅了する京都実現のため、関係者皆の協力と行動が大事です。初の「景観づくり活動部門」市長賞の栄誉を機に今後も頑張っていきたいと思います。

団体名

敬称略・五十音順

活動名称

檜原町家灯籠会

京都洛西ロータリークラブ

京の三条まちづくり協議会

公益社団法人 日本建築家協会近畿支部 京都地域会

宕陰活性化実行委員会

ふかくさ自然環境再生ネットワーク推進委員会

伏見+ART中書島映画プロジェクト、F7プロジェクト

先斗町まちづくり協議会

桃山プロジェクト

歴史は資産だ 繁栄宿場町「檜原」

嵯峨嵐山小倉山特別保存地域竹穂垣補修及び、竹林整備事業

京の三条まちづくり協議会の景観まちづくりの取組み

JIA建築と子供たち in KYOTO

宕陰竹灯籠

深草丘陵一帯の自然環境の再生と保全整備

中書島映画プロジェクト

先斗町の町並み景観の維持保全・再生

伏見桃山のいにしえと現在、未来を紡ぐ、桃の植樹活動

団体名

檜原町家灯籠会

活動名称

歴史は資産だ 繁栄宿場町「檜原」

【活動概要】

かつて山陰街道の宿場町として栄え、京都市市街地景観整備条例により「西京檜原界わい景観整備地区」にも指定されている西京区の檜原において、情緒あふれる町並みの価値を再認識し、景観の保全及び地域の活性化につなげるため、平成25年度から年2回「灯籠会」を開催している。「灯籠会」では東西700m続く旧山陰街道沿いの町家の軒先に灯籠を並べ、歴史的な建造物へのプロジェクションマッピングや雅楽のライブ、町家の軒先を利用した「檜原のきさき市」など、回を重ねるごとに様々な企画を実行し、参加者を増やしている。



選評

山陰道の宿場としての景観が色濃く残る地域で、その所有者に建物公開への賛同を得、その価値を確認することで住民ともその文化的価値の共有が可能となった。灯籠をキーワードとして展開したのは人の寄り易い優れたアイデアだった。今後は、歴史時代における山陰道という交通路の性格、その中での檜原の位置付けの説明も望まれる。

団体名

京都洛西ロータリークラブ

活動名称

嵯峨嵐山小倉山特別保存地域竹穂垣補修及び、竹林整備事業

【活動概要】

嵯峨嵐山の大河内山荘周辺は、古都保存法により「小倉山歴史的風土特別保存地区」にも指定されており、美しく風情ある竹林と竹穂垣の風景は、国内外から多くの観光客が訪れる京都を代表する名所の一つとなっている。かつて、竹林の小径は荒廃した時期もあったが、「京都洛西ロータリークラブ」は、20年以上前から地域に暮らす住民の方々や地域の青少年とともに竹林の整備や古くなった竹穂垣の補修活動を行い、美しい景観を次世代に引き継ぐ取組を継続している。



選評

20年間継続して竹穂垣の補修と竹林の整備を地道に行い、地元の住民、中学校などと連携した活動に発展させながら嵯峨嵐山の小倉山歴史的風土特別保存地区(古都保存法)の核となる美しい竹林景観の維持・形成に大きく貢献しており、文化的景観の管理の重要性を国内外に示す事例として高く評価できる。

団体名

京の三条まちづくり協議会

活動名称

京の三条まちづくり協議会の景観まちづくりの取組み

【活動概要】

近代建築や伝統的な京町家が並び、京都市市街地景観整備条例により「三条通界わい景観整備地区」にも指定されている三条通(寺町通～新町通間)において、七つの町内会で構成されている「京の三条まちづくり協議会」は、美しい町並みを守り、文化の香りを大切にする「品格のあるまちづくり」を進めるため、20年にわたる活動を継続している。老舗や新しい店舗、古くからの住民やマンション住民等が互いの多様性を認め合いながら、「お神輿まつり」や「もちつき大会」等のイベントや「まちづくりカフェ」等の勉強会を開催するとともに、歩いて楽しいまちづくりに向け、歩車共存道路の整備や速度規制の強化と信号機の撤去を実現している。



選評

歴史ある美しい建物が建ち並ぶ三条通において、歩車共存道路の整備に始まり、お神輿まつりなど数多くのイベントを通して、職住共存の「品格のあるまちづくり」を20年にわたり進めている。今後も、地域景観づくり協議会や無電柱化の取組により、三条らしい景観づくりが期待できる。

団体名

公益社団法人 日本建築家協会近畿支部
京都地域会

活動名称

JIA建築と子供たち in KYOTO

【活動概要】

平成16年から小学生とその保護者を対象に、京都を教材に建築を通して、子どもたちの創造力を育む活動を継続している。市内を散策し、町並みを撮影しながらインタビューを行う「まち歩き」や、「子供市民会議」を開催し、皆で話し合っまちのルールを決めジオラマの町並みをつくる「京都のまちのジオラマ」、こうした活動は、京都の歴史と文化に触れる機会を通じて、子どもたちが京都の建築やまちをより美しく未来に繋いでくれるようにとの願いが込められている。



選評

都市景観を考える時、20年、30年、50年というスパンの視点が欠かせない。その意味で、都市の風景を変える最も効果的な方法の一つが、子どもたちの意識を高めることである。彼らこそ数十年後のまちづくりの中心だからである。子どもたちの着眼点や発想力を引き出すプログラム、息の長いアプローチを持ったこの試みに敬意を表したい。

団体名

宕陰活性化実行委員会

活動名称

宕陰竹灯籠

【活動概要】

右京区宕陰地域において、「にほんの里100選」にも選ばれた棚田を中心とした美しい景観や山里の自然環境の魅力を多くの方に感じてもらうため、かつて地域で行われていた「虫送り」の風習を再現した竹灯籠の点灯行事を開催している。昼は棚田を眺めながら軽音楽等を楽しむ企画や棚田散策、夜は棚田の中に約300本の竹灯籠を点灯し、幻想的な夜間景観を演出した。散策路の草刈りを含め、住民総出で準備、運営しているこの取組は、夏の終わりの風物詩として定着し、宕陰地域の知名度の向上や来訪者の増加につながっている。



選評

美しい棚田の風景は宕陰の大きな財産である。しかもそのほとんどが実際に使われている生きた風景である。この財産を活かした竹灯籠のイベントは、毎年200名の人々が訪れ、カメラマンからも人気を博しているそうである。宕陰への人の流れをつくるきっかけとして素晴らしいものだと思うし、今後も更に発展することを願っている。

団体名

ふかくさ自然環境再生ネットワーク推進委員会

活動名称

深草丘陵一帯の自然環境の再生と保全整備

【活動概要】

深草丘陵一帯に位置する大岩山周辺地域は、かねてから不法投棄が絶えず地域の課題となっていた。平成19年から、地域住民、学校、行政が連携し、不法投棄物の一斉清掃や不法投棄防止柵の設置を実施。平成21年には、「ふかくさ自然環境再生ネットワーク推進委員会」を設立し、大岩山展望所の開設や深草トレイルコースの散策路づくり、じゅんさい池の整備に取り組み、不法投棄の山といった負のイメージは払拭された。現在も一斉清掃やトレイルコースの維持管理を行うとともに、外国人観光客の増加に伴い、英語版のトレイルマップを発行するなど、良好な景観を維持し、魅力を発信する取組を継続している。

選評

1960年代から大量に集積した産廃不法投棄に対する活動が、自然景観の回復を成し遂げた。不法投棄物回収(115トン)、展望所設置やトレイルコース整備等の活動に多数の参加者を集め、「人の目」を増やし不法投棄を抑制した。環境は劇的に改善され、その景観を楽しむ来訪者も増えて地域の誇りになった。広く紹介すべき活動である。



団体名

伏見+ART中書島映画プロジェクト、F7プロジェクト

活動名称

中書島映画プロジェクト

【活動概要】

中書島は、かつては交通の要所であり、京都と大阪を結ぶ繁華街として大いに栄え、頻繁に映画のロケが行われていた。今も残る風情ある町並みや、人情味あふれる人々たちを、映画を通じて残し伝えたいという思いで始まった「中書島映画プロジェクト」は、平成26年に地域住民を中心に俳優、スタッフを募集して、中書島映画第1弾を製作、上映会は地元の銭湯で開催された。昭和の面影を残すまちの魅力を、映画を通じて広く発信しようと様々なイベントを企画している。

選評

「映画(映像)」を通じて中書島の風景、暮らし、人の想いを伝え繋いでいく手法が面白い。題材も素晴らしく子どもから大人まで楽しめる。すでに地元銭湯、企業、商店街との協同を図り、製作費の財源もクラウドファンディングを活用するなど時代に合ったチャレンジと工夫が見受けられる。「中書島を映画のまちにすること!」というビジョンへの共感者を広げ、次世代への継承も地元住民と一緒に楽しみながら、ワクワク感をもって進めてほしい。



団体名

先斗町まちづくり協議会

活動名称

先斗町の町並み景観の維持保全・再生

【活動概要】

京都を代表する花街の一つである先斗町において、町並み景観を維持保全・再生するため、まちの自主的なルールを定めた「先斗町町式目」による屋外広告物の自主改善や、京都市市街地景観整備条例に基づく地域景観づくり協議会制度を活用した新規出店者等との意見交換に取り組みとともに、平成27年には「先斗町界わい景観整備地区」の指定を実現している。会議資料やイベント等のチラシには伝わりやすい「絵」を多用し、地域内に全戸配布を行うなど、地域内の情報共有にも工夫している。また、京都市と協働し、先斗町通の無電柱化事業にも取り組む。

選評

先斗町の歴史的な町並み景観やそこに息づく細やかなコミュニティは、まちの将来の姿を見据える構想力、丁寧かつ迅速な実行力、多岐にわたる情報発信力によって、より一層魅力的に継続されていることを知らしめてくれる取組である。多様な活動が有機的・戦略的に連繋しながらたたみかけるように展開されて行くさまは、新たな時代の景観づくりの方法を示しているかのようである。活動の細部に宿るデザインの質の高さも特筆される。



団体名

桃山プロジェクト

活動名称

伏見桃山のいにしえと現在、未来を紡ぐ、桃の植樹活動

【活動概要】

江戸時代には吉野の桜と並び称された伏見桃山の「桃」を切り口に、桃の植樹や管理、桃山の桃の歴史研究等を通じて、歴史や自然、文化等をいかした地域づくりに取り組む。ボランティアスタッフや地元の小中学生とともに、記憶に残る植樹イベントを開催し、伏見桃山の学校・公園・河川敷、民間の住宅や商業施設等に約300本の桃の苗木を植樹。植樹した苗木の剪定等の管理と併せて児童公園の清掃や花壇づくり、桃にまつわるイベントの開催にも取り組んでいる。

選評

300年以上の歴史を遡る「桃山」という言葉をあえて文字通りに解釈し、現実に桃の木を山を再現しようとするユニークなアプローチが刺激的である。うまく実現すれば、新しい景観が歴史とも結びつく発明的なものになるだろう。地上だけでなくビルの屋上にも桃を植えるとより立体的な風景が生まれるかもしれない。



団体名	敬称略・五十音順	活動名称
一念坂・二寧坂 古都に燃える会		多様な参画主体による歴史的地域景観の保全と継承に向けた長期的・持続的・自律的取り組み
一般社団法人 京都造園建設業協会		「紅葉街路樹 二段階剪定」の実施に向けた市民・行政との協働
小倉山をみつめる会		小倉山の自然を守り育て美しい山容を未来へ
鴨川運河会議		鴨川運河 ～発見・発信＆発進～
京都・薪ストーブ友の会		薪作りで里山美化整備
京の社家を学ぶ会		「寺子屋」を通じて、上賀茂の社家建築(社家町)を残す小さな活動(主は変わるが屋形は残る)がテーマ
七條大橋をキレイにする会		七條大橋をキレイにしよう
水車の竹中みち実行委員会		水車の竹中みち文化的景観の継承の取り組み
特定非営利活動法人 京都歴史地理同考会		洛中洛外に史蹟をつくる
特定非営利活動法人 古材文化の会		歴史ある建物の所有者をサポート
なんやかんや大原野地域ブランド活動チーム「むらさきチーム」		藤袴（フジバカマ）の保全・育成活動
明神川美化保存会と上賀茂町並み保存会		明神川の美化保存及び上賀茂の歴史的な街並みの保存
元吉町町内会・橋本町町内会		地蔵盆での行燈の復活による夜の景観の魅力向上と地域の交流促進活動

団体名	一念坂・二寧坂 古都に燃える会
活動名称	多様な参画主体による歴史的地域景観の保全と継承に向けた長期的・持続的・自律的取り組み
【活動概要】	大正数寄屋風の建物が多く残る東山の一念坂・二寧坂界わいは、文化財保護法に基づく伝統的建造物群保存地区にも指定されている。この町に住む人の生活や息遣いが感じられるこの地域の景観の価値を共有し、次の世代へ継承するため、屋外広告物の色彩基準等を地域独自で定めた「まちづくり自主規制宣言」や京都市市街地景観整備条例に基づく地域景観づくり協議会制度も活用し、世代交代を経て、30年間を超える長期的・持続的な取組が継続されている。
選評	昭和61年の発足以来、地域の自立運営のもと、ごみ、防犯、交通、電線類の地中化、景観と様々な地域課題の解決に精力的に取り組んできた。特に、屋外広告物を中心とした自主規制や、地域景観づくり協議会の活用等により、文化的地域資産の継承に加え、質の高いまちなみを育むことが期待される。



団体名	一般社団法人 京都造園建設業協会
活動名称	「紅葉街路樹 二段階剪定」の実施に向けた市民・行政との協働
【活動概要】	市内の街路樹の落葉の量を減らしつつ、道行く人々が秋の紅葉を楽しめる京都独自の二段階剪定を実施。二段階剪定は、秋口と落葉後の2回に分けて剪定を行う手法であり、京都の造園界が脈々と受け継いできた「透かし剪定」の技術を活用し、落葉の量を減らしつつ、爽やかな樹形をつくる。行政と協働し、近隣の市民の意見をくみ取りながら試行錯誤を続けた結果、美しい沿道の紅葉景観が実現している。
選評	街路樹は季節の変化を都市に刻印する存在である。京都の街路樹がさりげなく日常生活の風景に溶け込んでいる背景には、街路樹景観と落ち葉軽減の両立を図る長年にわたる本活動がある。伝統技術に裏打ちされた京都の造園業界(造園業者約20社)による透かし剪定技法を駆使した街路樹の維持・育成は、同業者による技術の高め合いが何気ない景観を支える好事例である。

団体名	小倉山をみつめる会
活動名称	小倉山の自然を守り育て美しい山容を未来へ
【活動概要】	百人一首にも詠まれた小倉山は、古都保存法の小倉山歴史的風土特別保存地区及び史跡・名勝嵐山にも含まれる風光明媚な場所である。会発足当初は、山陰線トンネル工事で使用された山頂部の復元を見守っていたが、次第に植林活動や枯れマツの伐採等に取り組み、20数年にわたる地道な活動の継続により、アカマツ、ヤマザクラ、カエデ等の復活を目指している。最近では、国内外からのハイカーも多く見られるようになった。
選評	25年の歴史をもつこの会は旧国鉄山陰線トンネル工事廃土で破壊された小倉山頂の景観を復元する活動を辛抱強く続けてきた。京都の景観は、この会のような熱心な市民の絶えまぬ努力によって守られている。会に参加した皆さんの努力は、景観まちづくりの創成期の偉業として小倉山の名とともに語り継がれる。

団体名	鴨川運河会議
活動名称	鴨川運河 ～発見・発信＆発進～
【活動概要】	伏見区を南北に流れる鴨川運河は約120年の歴史があり、近代化を象徴する貴重な土木遺産であるとともに、地域の暮らしや生業と密接に結び付いている。「鴨川運河会議」は平成27年から活動を開始し、古写真の発掘や展示、ウォーキングイベントや運河沿いでの演奏会等を通して、鴨川運河を取り巻く地域の魅力を伝えとともに、住民の連携を深め、世代間交流や地域の活性化を図ろうとしている。
選評	土木インフラは、私たちの生活になくってはならない存在だが、その歴史的価値や景観の可能性を認識することは決して容易ではない。琵琶湖疏水の鴨川運河に注目した本活動は、そうした土木インフラの魅力や五感を使って拾い上げ、魅力発信を展開する取組であり、その着眼の広さとユニークさが評価された。大小さまざまな視点が、今後景観まちづくりにどのように接続していくのか、更なる活動の展開が期待される。



団体名

京都・薪ストーブ友の会

活動名称

薪作りで里山美化整備

【活動概要】

薪ストーブの愛好家で構成されている「京都・薪ストーブ友の会」は、市内の山林に放置されたナラ枯れ材や倒れた老木を自らの手で回収し、薪として活用する「薪作りで里山美化整備」に取り組む。倒木を取り除き里山を整備だけでなく、化石燃料の消費を節減することは、持続可能な自然環境の維持にも貢献している。



選評

薪ストーブに利用する薪の採取や森の手入れを通し、京都の里山の資源が循環的に利用される仕組みを構築するとともに、人と人との出会い、地域と関わる機会を新たにつくる場としても機能しており、これからの豊かな環境そして地域社会を具現化する道筋を示す非常に重要な活動である。

団体名

京の社家を学ぶ会

活動名称

「寺子屋」を通じて、上賀茂の社家建築(社家町)を残す小さな活動(主は変わるが屋形は残る)がテーマ

【活動概要】

上賀茂地域にある社家建築の改修工事をきっかけに、大工や左官業、庭師等の職人が集まり、平成22年から社家の見学会や勉強会を「寺子屋」として開催。町家や農家には見られない独特の意匠を持つ貴重な社家建築を後世に維持継承するための活動に取り組む。「寺子屋」では社家の持ち主や地域の住民も加わり、社家を通じて上賀茂地域の町並みや歴史、文化を学んでいる。



選評

新たな史料を発掘し読み解くことで、社家町の成り立ちや文化について「寺子屋」活動を展開し広く知らしめた。この中で、社家建築の景観にとどまりがちな一般の認識を賀茂氏や京都盆地の歴史に広げることが、かえって社家建築の意義の再認識につながった。さらに保存には、社家町としての合意形成への支援が望まれる。

団体名

七條大橋をキレイにする会

活動名称

七條大橋をキレイにしよう

【活動概要】

竣工100年を迎えた七條大橋(大正2年竣工)は、日本の鉄筋コンクリート造のアーチ橋の先駆けであり、鴨川に架かる橋で唯一、明治期の意匠を残す貴重な土木遺産である。橋や周辺の定期的な清掃活動や歴史研究等を通じて、橋へ愛着を持つ人々の輪は広がっており、今後は、戦時中に撤去された高欄や照明柱の復元等、景観的価値を更に高める取組にも意欲的である。



選評

清掃活動に始まり、歴史の発見と地域の交流へと、密度の濃い展開を見せており、七條大橋に徹底的にこだわった活動は結果的に七條大橋のPRにもつながっている。地道な活動のもつ力強さと継続性が評価される。さらなる創造性による活動の広がりと、今後の継続性に期待する。

団体名

水車の竹中みち実行委員会

活動名称

水車の竹中みち文化的景観の継承の取り組み

【活動概要】

「水車の竹中みち」とは、平成27年に国の文化財「重要文化的景観」に選定された「京都岡崎の文化的景観」のうち、琵琶湖疏水から分水する白川に沿った細道及び周辺の呼称であり、水車を利用した精麦所であった竹中庵をはじめ、近代以降の生業と水との関わりを示す遺構が残る。白川での茶の湯イベントや水車のプロジェクションマッピング等を行い、文化的景観の魅力を広く発信している。



選評

景観は地域の記憶の集積である。琵琶湖疏水開削により近代化した岡崎で水力を利用した町工場だった「竹中精麦所」跡の景観の継承を目指したまちづくりである。岡崎は今も残る庭園だけでなく、工業地帯でもあった。見失いがちな地域の歴史を丹念に掘り起こした景観はまちづくりの新潮流として評価される。

団体名

特定非営利活動法人 京都歴史地理同考会

活動名称

洛中洛外に史蹟をつくる

【活動概要】

京都の名所・旧蹟の歴史地理的意義を広く社会に発信するため、NHK大河ドラマにゆかりの地を中心に石碑や解説板の設置を行っている。これまでに市内12箇所で建碑を行い、解説板には古地図や絵画資料等も掲載することで、その土地の持つ歴史を多くの人々に伝えている。これらの石碑は市民や観光客のまち歩き、歴史散策にも広く利用されている。



選評

歴史が折り重なった京都にあって、景観というものが決して現代、目の前に見えているものだけのものではないということを、人々が自ら発信できる仕組みを作り出しており、そのユニークさは他の景観づくり活動にも大きな示唆を与えるものである。更なる継続と広がりに期待する。

団体名

特定非営利活動法人 古材文化の会

活動名称

歴史ある建物の所有者をサポート

【活動概要】

歴史ある建物の保全のため、「残したい建物を見守るシステム(仮称)」を提案し、試験的に実施している。歴史的建造物の保存活用について学んだ京都市文化財マネージャー等が建物のかかりつけ医のように「見守るマネージャー」として建物所有者に寄り添い、建物診断やイベントの企画運営、最適な専門家のコーディネート等の様々なサポートを行っている。



選評

景観に欠かせない古材文化を継承する上で具体的に人材の育成を通じて所有者と専門家、歴史を紡ぐシステムが確立されている。今後も、京都市文化財マネージャー(見守るマネージャー)が地域住民との繋がりを構築しながら周知を図り、現状の課題に加え未来の景観づくりについても議論することで幅広い世代と広がりのある活動を継続してほしい。

団体名	
なんやかんや大原野地域ブランド活動チーム 「むらさきチーム」	
活動名称	
藤袴（フジバカマ）の保全・育成活動	
【活動概要】 万葉の時代から親しまれてきたが、現在は準絶滅危惧種に選定されている「藤袴」の原生種が西京区大原野地域で発見されたことを機に、地域で育成活動を行い、毎年9月には藤袴の鑑賞会である「フジバカマ祭り」を開催している。大原野地域以外の市内の複数の地域でも育成活動は広がっており、休耕田や街中の秋の彩りを創出するとともに、育成活動が地域間交流を深める機会にもなっている。	
	選評 地元で発見された希少種であるフジバカマの原種を地域ぐるみで育成し、増やしていくことにより、地域固有の景観、特産品などとして活用し、地域活性化につなげる活動に発展させるとともに、アサギマダラなども含む生物多様性の保全にも大きく貢献する活動となっており、高く評価できる。

団体名	
明神川美化保存会と上賀茂町並み保存会	
活動名称	
明神川の美化保存及び上賀茂の歴史的な街並みの保存	
【活動概要】 明神川は賀茂別雷神社（上賀茂神社）の社家町が残る、文化財保護法に基づく上賀茂伝統的建造物群保存地区に流れる川であり、明神川と周辺地域の美化活動や、灯籠流し等のイベントを通じて、川と町並みが一体的に保全されている。「子どもたちに美しい川をのこそう」をスローガンに地域の幅広い層が活動に参加し、上賀茂地域の景観を後世に伝える活動が継続されている。（明神川美化保存会は昭和42年から、上賀茂町並み保存会は昭和63年から活動を開始。）	選評 約50年にわたり、明神川保存会での活動を継承されていることが素晴らしい。「子どもたちに美しい川をのこそう」という未来に向けたスローガンのコンセプトも心をうたれる。こうした活動を通じて、社家町らしい伝統的なたたずまいの保存、景観づくりの大切さを学んだ子どもや大人のストーリーなどがあると、更なる発展と共感が生まれると思う。

団体名	
元吉町町内会・橋本町町内会	
活動名称	
地蔵盆での行燈の復活による夜の景観の魅力向上と地域の交流促進活動	
【活動概要】 文化財保護法に基づく祇園新橋伝統的建造物群保存地区として知られる当地区は、洗練された京町家や石畳、白川等による美しい町並み景観が保たれている。かつて飾られていた地蔵盆の行燈が見つかったことをきっかけに、平成23年に地蔵盆での行燈を復活。現在では、地域住民や近隣の高齢者、子どもが描いた絵を貼った150基の行燈が軒先に連なり、懐かしい夏の夜の景色が戻るとともに、地域内交流の促進にもつながっている。	選評 伝統的建造群保存地区に制定されているが、何もしないで景観が維持されるわけではない。制度を生かしつつ、景観資源の更なる向上を自ら積極的に図る姿勢は高く評価される。また取組は地域内の交流の密度を高めるものであり、将来にわたる景観を支える仕組みづくりにつながっている。

団体名	敬称略・五十音順	活動名称
嵐山はなはなサークル 一般財団法人 長谷川歴史・文化・交流の家 岩倉川を守る会 春日住民福祉協議会 桂坂古墳の森保存会 株式会社 京都設備 株式会社 八清 上賀茂自治連合会		環境の美化、心癒される場所作り 長谷川家住宅を拠点とした東九条からの発信 ホテルも飛び交う清流の岩倉川にしよう 春日学区住民交流施設整備 「古墳の森」（京都市指定史跡・大枝山古墳群）の景観等の維持・保存活動 京感を呼ぶ空調室外機カバープロジェクト 「京町家×石畳」町並みプロジェクト 上賀茂地域の身近な本山での森林景観づくり <京町家を残そう！>とされる方々を設計者・施工技術者・不動産事業者の三面から支援する活動を行う 琵琶湖疏水の顕彰と観光、教育への活用 天皇の杜環境保全美化活動 地域主体の緑あふれるまちなか緑化の推進について つむぎ庵 歴史の文脈に基づいた暮らしが表れるまちづくり 誰もが住みやすい、そして愛着を持って暮らせる京都のまちづくりを目指して え！？今頃ひまわり大原野 都ライト 隠れた大原の魅力を探訪する里山体験プログラム企画
近代京都の礎を観る会 史跡天皇の杜古墳保存会 社会福祉法人 志心福祉会 はなぶさ保育園 スペースデザインカレッジ京都校2年生一同 醍醐の歴史と暮らしを学ぶ会 都市居住推進研究会 なんやかんや大原野 農家版 都ライト実行委員会、NPO ANEWAL Gallery もっと大原里山研究所		

団体名	
嵐山はなはなサークル	
活動名称	
環境の美化、心癒される場所作り	
【活動概要】 桂川の河川敷に整備された嵐山に続く道沿いの花壇において、四季折々の花が咲くよう、継続的に維持管理し、地域住民や観光客の心が癒される場を創出。花があることでゴミのポイ捨ても減り、地域住民や観光客、散歩で訪れる方々から喜ばれている。	

団体名	
一般財団法人 長谷川歴史・文化・交流の家	
活動名称	
長谷川家住宅を拠点とした東九条からの発信	
【活動概要】 国の登録有形文化財でもある南区東九条の長谷川家住宅を拠点に、研究会や展覧会、地域の方々の交流を深めるバスツアーやコンサート等様々なイベントを開催。	

団体名

岩倉川を守る会

活動名称

ホタルも飛び交う清流の岩倉川にしよう

【活動概要】

定期的に岩倉川流域の清掃活動を行うことで、岩倉川にホタルが繁殖できる環境整備を目指し、ホタルに関する勉強会の開催や、ホタルの餌となるカワニナ貝の飼育等も実施。清掃活動により、常時綺麗な川面としておくことでゴミのポイ捨ても減り、子どもたちを安心して遊ばせられる環境となってきた。



団体名

春日住民福祉協議会

活動名称

春日学区住民交流施設整備

【活動概要】

上京区の圓通寺敷地内の空き家を春日学区の住民が交流する施設等として再整備。焼き杉板や和瓦での改修工事により、境内の他の建物と調和する外観となり、周辺景観にも配慮されている。なお、当空き家の活用プランは京都市の「空き家活用×まちづくり」モデル・プロジェクトにも採択されている。



団体名

桂坂古墳の森保存会

活動名称

「古墳の森」(京都市指定史跡・大枝山古墳群)の景観等の維持・保存活動

【活動概要】

桂坂学区の中央部に現存する古墳公園として整備された14基の古墳を京都市とともに保存・管理。平成23年度から定期的に「古墳の森」の清掃やパトロールを実施し、長年にわたり放置されていた美観を再生した。また会報や見学者用の散策案内等を作成し、「古墳の森」の情報を発信している。



団体名

株式会社 京都設備

活動名称

京感を呼ぶ空調室外機カバープロジェクト

【活動概要】

景観上の配慮が求められる空調室外機に対し、格子等で「隠す」のではなく、伝統・品格・遊び心のある着物をヒントに、「装う」という発想で、京都らしい新たな室外機カバーを提案。空調技術者の視点から、室外機の機能の維持と、京都ゆかりの素材を取り入れた日本美の演出に挑戦している。



団体名

株式会社 八清

活動名称

「京町家×石畳」町並みプロジェクト

【活動概要】

京町家単体のリノベーションに留まらず、隣接する路地(私道)を石畳に整備することで、京町家の再生とともに京都らしい風情ある町並みづくりに取り組む。そこに住む人々が共同利用するパブリックな空間を整備することで、地域の魅力の向上にも貢献している。



団体名

上賀茂自治連合会

活動名称

上賀茂地域の身近な本山での森林景観づくり

【活動概要】

上賀茂本山を魅力あふれる里山に再生するため、植樹活動を行うとともに、現地調査やワークショップを行い、「地域の身近な本山での森づくり」をテーマに「森づくり計画」を策定。今後、京都市と協力し、散策道整備や間伐等を行っていく。



団体名

京町家居住支援者会議

活動名称

＜京町家を残そう!＞とされる方々を設計者・施工技術者・不動産事業者の三面から支援する活動を行う

【活動概要】

京町家のあらゆる問題に対応できる組織として、学者、設計者、施工技術者、不動産事業者の有志が集まり、平成18年に「京町家居住支援者会議」を立ち上げた。京町家で安心して快適に暮らし続けることを実現するため、耐震改修の必要性の啓発と工事及び活用の提案を実践している。



団体名

近代京都の礎を観る会

活動名称

琵琶湖疏水の顕彰と観光、教育への活用

【活動概要】

琵琶湖疏水の素晴らしい景観や産業遺産の認知度を高め、観光や教育への活用を促すため、冊子「琵琶湖疏水の歴史散策」の発行や、京都市上下水道局や関西電力株式会社の協力を得て説明板を設置。「明治ロマンの道ウォーク実行委員会」にも参画し、現地の案内等を積極的に行っている。



団体名

史跡天皇の杜古墳保存会

活動名称

天皇の杜環境保全美化活動

【活動概要】

市内で最大級を誇る前方後円墳であり、松陽学区の宝として憩いの場、交流の場として区民に親しまれている西京区の天皇の杜古墳の由緒ある史跡公園を後世に伝えるため、20数年の長きにわたり清掃活動や監視活動を継続している。年2回春と秋の一斉清掃では、地域が一体となり、子どもから大人まで約200名が参加。四季を通じて美しい景観が維持されている。



団体名

社会福祉法人 志心福祉会 はなぶさ保育園

活動名称

地域主体の緑あふれるまちなか緑化の推進について

【活動概要】

雑草が生い茂りごみが散乱することもあった、保育園隣接地の道路法面を市民公募型緑化推進事業により緑あふれる憩いの場に整備。京都市街路樹サポーターに登録している保育園職員を中心に、通園している園児等の協力を得て、水やり、清掃、花の植替えを実施している。



団体名

スペースデザインカレッジ京都校 2年生一同

活動名称

つむぎ庵

【活動概要】

岡崎の重要文化的景観で活動する「水車の竹中みち実行委員会」によるイベントで、白川の上にお茶室「つむぎ庵」を設置し、お茶会を実施。和紙と紙管でつくってお茶室から漏れる灯りが行燈のように周囲を照らし、景観を浮かび上がらせ、白川の流れる音や揺らぐ桜の木々を一層引き立てる工夫を凝らした。



団体名

醍醐の歴史と暮らしを学ぶ会

活動名称

歴史の文脈に基づいた暮らしが表れるまちづくり

【活動概要】

醍醐地域の暮らしと文化、歴史を学び、景観や環境を保全するため、平成27年に会を設立し、勉強会や講演会、旧家の見学会等を開催している。また、「京都を彩る建物や庭園」への応募や、地域住民から寄せられた古写真の展示会等を実施している。



団体名

都市居住推進研究会

活動名称

誰もが住みやすい、そして愛着を持って暮らせる 京都のまちづくりを目指して

【活動概要】

平成6年に発足した、京都に根差した課題を解決していくための提案型・実践型の研究会であり、建築、不動産、まちづくり、行政等の専門家で構成されている。研究を通じ、これまでから多くの提言や設計コンペ等のモデル事業を実施しているが、平成28年度は路地のまちづくりをテーマとした提言を京都市に提出。



団体名

なんやかんや大原野 農家版

活動名称

え！？今頃ひまわり大原野

【活動概要】

西京区大原野の魅力を発信し、地域のブランド力を高めるため、平成25年から市民とともにひまわりの苗植えイベントと、満開を迎える9月の開花イベントを実施。開花イベントでは約15,000本の赤や黄色のひまわりが咲き誇り、大原野産野菜や加工品の販売等が行われ、他府県からの観光客も含め、多くの人が訪れている。



団体名

都ライト実行委員会、NPO ANEWAL Gallery

活動名称

都ライト

【活動概要】

西陣地域において、「暮らしの灯り」をコンセプトに、町家の格子からもれる光や手作りの行灯によるライトアップイベントを毎年継続して開催(平成28年度で12回目)。大学生主体の実行委員会とその事務局を担うNPOが一体で取り組むことで、継続的な活動を行っている。



団体名

もっと大原里山研究所

活動名称

隠れた大原の魅力を探訪する里山体験プログラム企画

【活動概要】

地域住民とともに大原の隠れた観光資源を改めて探索し、豊かな自然歴史資源を体感できるまち歩きイベントの企画や、「フォトウェディング」の実施に向けた里歩きワークショップの開催や紹介パンフレットの作成に取り組んでいる。



京都市 都市計画局 都市景観部 景観政策課

〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る 京都市役所北庁舎2階

電話:075-222-3397 FAX:075-222-3472



この印刷物は、不要になりましたら
「雑がみ」としてリサイクルできます。
コミュニティ回収や古紙回収等
にお出ください。

